

沼津高架PIプロジェクト 沼津駅周辺地区第1回勉強会 開催概要

去る1月12日(土)、PIプロジェクトでの初めての勉強会が開催されました。鉄道高架事業や沼津駅周辺地区のまちづくりに関心のある団体から23名が参加したほか、傍聴者や報道関係者も多く集まり、活気あふれる会となりました。

今回は初めての開催となるため、冒頭で勉強会の目的やスケジュールがPI運営事務局から説明されました。その後の会の運営は、第三者となるファシリテーターに委任され、3つに分けられたグループ毎に話し合いが始まりました。

話し合いは、勉強会の進め方についての意見交換から始まり、続いて沼津駅周辺地区の地域づくりの目標について議論され、最後に各グループの結果が発表され、およそ3時間に渡る議論が終了しました。

前半の進め方についての議論では、目標に立ち返った議論を歓迎する意見がある一方で、鉄道高架の必要性に短絡してしまう危険性があるとの指摘や、判断が先延ばしされるのではないかと懸念も寄せられました。この他、客観的データの提供を求める声などがありました。

後半の地域づくりの目標に関する議論では、これまで寄せられた意見をもとに「暮らし」「交流」「産業・雇用」「交通」「防災」の観点からの意見交換が行われました。

「暮らし」については、子育て世代や高齢者などのターゲットを具体的に捉えた目標設定が必要といった意見や、住民にとって魅力ある地域づくりを進めることで定住人口を増やすことが大切といった意見、また、コンパクトな範囲に生活のための施設や緑が充実すべきといった提案や、区画整理区域内の現状に配慮すべきとの意見もありました。

買い物や通勤者、観光客などの来訪者に関する「交流」の議論では、沼津やその周辺の観光資源やキラメッセなどの新たな施設などを活かした具体的な戦略を持ち、県東部地域を視野に入れて交流を盛んにすべきとの指摘や、観光客だけでなく定住者を増やすことにつながるような魅力が必要との意見が出されました。

地域の「産業・雇用」については、車社会に対応した中心市街地の商業のあり方や課題について指摘があった他、物販だけでなく新たな商業を活性化し、沼津の特色づくりをしたいという展望が語られました。

駅周辺地区の「交通」や「防災」については、地震や津波発生時の避難に対する不安や、橋の安全性への不安など、特に災害時の交通課題が懸念されています。

総じて、鉄道高架事業等について考える上で、まずは沼津駅前だけでなくより広い範囲で目標を共有することが大切との指摘や、沼津駅周辺地区のポテンシャルを最大限に活かす視点を持つという提案がありました。

次回(2月2日(土))は、引き続き地域づくりの目標についての議論を行うとともに、広域的なテーマについても意見交換を進める予定です。

※グループ検討の概要について

この資料は、グループ検討の振り返りのために、暫定的に議論の概要を整理したものです。ファシリテーターが受け取った内容を議論の概要として記述したもので、個別の意見を示したものではありませんことをご了承ください。修正が必要な点があれば、グループ検討の中で確認して下さい。

沼津高架PIプロジェクト 沼津駅周辺地区第1回勉強会

グループ検討の概要【Aグループ】

勉強会の進め方について、「様々な考えの人がいるが、沼津をよくしたいという想いは皆同じ。まずは特定の考えにとらわれず、沼津をよくするにはどのような街であったらよいか、という大きな目標を話せたらよい」「まちづくりは行政におまかせではなく、市民も考えなければいけない。どのような街にしたいのかを話し合うことで、それが目標になるのではないかなど積極的なご意見を頂きました。一方、参加者構成について、「これからの沼津を考えるので、若い世代や男女比にも配慮したほうがよかった」というご指摘がありました。また、今後の勉強会では、目標を定め、さらに議論を深めるために、「現在進んでいる一連の事業が、沼津の街にどのような効果・影響を及ぼすのかを、これまでの報告書やデータなどをもとに検証しながら進めたい」というご意見を頂きました。

地域づくりの目標について、概ね皆さんのご意見として、大きく以下の5点が出されました。

1. 「暮らしやすいまち」とはどのような街なのか、高齢者、子ども、子育て世代など各々の立場にたって、もう少し具体的な目標を掲げたらどうか。
2. 「かつての賑わいを」の「かつて」は不要。これからの沼津は商業だけではない街を考えていく必要があるのではないかな。
3. 「産業・雇用」については、地区内の既存業態と共存共栄できるよう、新たな業態で新たな雇用を図る必要があるのではないかな。
4. 「地元資源の活かし方」について、もう少し具体的な目標をかかげたらどうか。点のままでは活かさない。線や面になって初めて地元資源として活かせるのではないかな。
5. 「目標」として、地区内および隣接部のゾーニングができるとよいのではないかな。

上記の点を話し合う中で、以下のような意見を共有しました。

「暮らしやすいまち」については、「高齢者にとっては、生き甲斐や役割をもって生活できる、引きこもらず家以外にも過ごせる場がある。子育て世代にとっては、子どもの教育・保育環境が整っている、放課後に子どもが過ごせる場がある」また、「支え合うには、子どもを増やす、人口を増やすことが必要」との意見を頂きました。

「賑わいのあるまち」については、「子育て世代の多くは共働き。買物も、郊外モール型施設や通販など大きく変わった。商売＝モノを売るだけでは人は街に出ない。サービスを提供・享受できる街、歩いて楽しくなる街など、街に出たくなる魅力が必要。その中でも駅は、人が集まり、溜まり、交流できることが大きな魅力になる」、「まちの回遊性や、車でのアクセス、駐車環境なども人が集まるためには重要」との意見を頂きました。

「雇用」と「既存業態との共存共栄」については、「高度医療、教育、カルチャー、スポーツ、介護などで雇用を図り、施設利用者によって既存商店や飲食店も集客を図る」、「地元資源」については「今は街なかの回遊性がない。特に中央公園・狩野川周辺は、駅から歩ける距離なのに地域資源としての魅力を活かしきれていない。沿岸と合わせ、面的な魅力づくりが必要である」との意見を頂きました。さらに、「ゾーニング」については、地区内だけでなく、次回の話し合いに繋がる広域な視点での「棲み分けが必要」との意見も出されました。

以上、第1回は、「交通」「広域」の話題も含めながら、「暮らし」「交流」「産業・雇用」を中心に、地区の目標を確認しながら話し合いました。

※グループ検討の概要について

この資料は、グループ検討の振り返りのために、暫定的に議論の概要を整理したものです。ファシリテーターが受け取った内容を議論の概要として記述したもので、個別の意見を示したものではありませんことをご了承ください。修正が必要な点があれば、グループ検討の中で確認して下さい。

沼津高架P I プロジェクト 沼津駅周辺地区第1回勉強会

グループ検討の概要【Bグループ】

勉強会の進め方については、「勉強会の開始時期が遅れたことを考えるとしっかり議論をするためには時期を延期した方が良いと思うが事務局はどう考えているのか」という会のスケジュールに関する質問が出されました。その他にも、「原地区の勉強会との整合性をどう考えているのか」「参加者に女性がいなのは選考時に配慮が必要だったのでは」「市の職員が参加していないのは問題」などのご指摘がありました。

一方で、「高架事業に賛成の人にも反対の人にもそれぞれの理由があるので、意見交換して各々の考えを理解し合い、沼津のまちを良くしたいという共通の思いを実現させるためにジレンマを克服できる場になると良い」という期待も出されています。

また、この勉強会を有意義な場としていくために、高架事業に関わる様々な経緯を参加者全員が理解した上で、市の財政状況や投資効果のデータに基づき、勉強会での議論がしっかり反映される様に位置づけ明確化して議論を進めていきたいというご意見を頂いています。

地域づくりの目標に追加、修正したい視点として、全体を通じて下記の3つに留意して欲しいという意見が出されました。

1. 地域づくりの目標の対象エリアは、沼津駅周辺と言っても駅や駅前だけでなく、もっと広い範囲で考える必要がある。エリアマネジメントの視点も大切だと思う。
2. 現状のままではどの地域にも当てはまる様な表現になっているので、もっと沼津の自然を表現し、狩野川、香貫山、キラメッセなどの固有名詞も入れて、読んだ人がイメージしやすく沼津らしさのあるものにしたい。
3. 沼津はポテンシャルがある地域だと思っているが、仕掛けやソフト、広報力が欠けているので、目標の中にそれらの必要性を強調して入れていくのが良い。

個別の表現については、『暮らし』では「誰もがという言い方ではなく、子育て世代などターゲットを明確に入れた方がわかりやすい」「区画整理事業によってコミュニティに影響を受けている地域への配慮も必要」といったご意見が出されています。

『交流』では、「まちの活性化を図るには定住人口を増やす必要がある」という意見がある一方で「定住人口の増加は難しいのでコンパクトシティ化を図って中心部に人を住ませるのが現実的」という考えも出されましたが、公園などの子供が遊べる空間づくりや商業だけではなく公的施設による魅力づくりなどにより、中心部に住むメリットが感じられる様にすることが重要だという点は共通していました。

『産業・雇用』では「新たな産業の誘致だけでなく既存企業との関係性強化の視点も重要」「企業誘致の呼び水となる大学院大学や研究機関の誘致についても触れる」「農林水産業の振興と結び付ける視点が必要」というご意見をいただきました。

『交通』では「市民の足となり近隣都市間を結ぶ公共交通の充実」「歩いて楽しいだけでなく天候に左右されず、車いすやベビーカーにとって便利で快適な視点も必要」、『防災』では「中心市街地の建物の老朽化が進み危険度が増していることへの対応も重要」というご意見の他、橋の安全性や災害時の避難についての懸念も出されていました。

※グループ検討の概要について

この資料は、グループ検討の振り返りのために、暫定的に議論の概要を整理したものです。ファシリテーターが受け取った内容を議論の概要として記述したもので、個別の意見を示したものではありませんことをご了承ください。修正が必要な点があれば、グループ検討の中で確認して下さい。

沼津高架P I プロジェクト 沼津駅周辺地区第1回勉強会 グループ検討の概要【Cグループ】

まずは、参加者全員が、自己紹介をかね勉強会の進め方について意見を出し合いました。みなさん共通して、沼津を誇れるようなまちにするという同じ目的のもと、いろいろな意見の違う人と建設的な意見を出し合いたい、という気持ちである事が確認できました。

また、高架事業の目的や効果、裏付けとなるデータ等を再検証する場となることに期待するというご意見が出されました。たとえば、南北交通の課題、高次都市機能とは何か、時間軸の中での高架化の効果について検証したいといった意見や、駅利用者数、商業実態、市の財政などのデータに基づいて議論をしたいといった意見がありました。

その他、これからの社会のあり方の変化を予測し、特に車社会への変換に商店街がどう対応して行くかを考えたいというご意見がありました。

地域づくりの目標の各項目について確認しながらそれぞれの意見を出し合いました。

『暮らし』の面からは、「ドーナツ化でまちが拡散しているなかで、保育所の充実、生鮮品の店、人が集える公園等の充実など、もういちど生活者、特に子育て世代の視点で魅力のあるまち、高齢者の住みやすいまちにしたい」「すぐには無理でも、将来的には駅の近くに定住人口を集めることを目標にすべきでは。そのことで商店街も賑わうのではないか」といった目標が確認されました。

『交流』については、賑わいを取り戻すためには、「中心市街地へのニーズの変化に対応し、商業だけではなく居住、観光、教育、文化などでまちに人を呼び集めるしかけ・戦略が必要である。これまでは戦略がなかったのでは」という意見がありました。仕掛け・戦略として、たとえば「高齢者向けのマンションなどのニーズの高まりを反映させては」「若い世代を集めるために、大学・専門学校を誘致しては」「まちの顔、沼津のシンボルとなるような公園・文化施設の一体化した緑のゾーンがほしい」「コンベンションセンターで全国的な会合を誘致しつつ、地域の活性化施設としても活用したい」といった議論がされました。

『産業・雇用』については、特に商業、商店街の活性化が話題になり、「中心市街地の商店街がまとまって対策・戦略を考えることが必要では」といった指摘や、「郊外から車で買い物に来る人に対応した商店街となるため駐車場整備が大事」などの意見がありました。また、観光についても、「今後の沼津の活性化にとっては大変重要で、駅周辺には沼津港や周辺観光地のハブ、玄関口としての機能（宿泊、特産品の店など）が求められている」という意見を頂きました。

ここで、暮らしや交流、産業についての「このような戦略があってこそその活性化であり、高架化すれば活性化できるということはない」という意見も出されました。

第1回は、『暮らし』『交流』『産業・雇用』を中心に地域づくりの目標を確認しました。共通して、「時代のニーズの変化をふまえて、どのような活性化戦略を立てるかが重要だ」という意見を頂いています。